

傳治爲の故定と云人又習て精妙とゆり又流  
流の弓術を奥旨と究るすと云事可貴  
草的の中を神妙とゆり是穀志の多し  
とよあつとも且能日奥村石家仲之と云  
て我此道を學ひて初めと云實よ人傑  
かり元禄六年十二月廿七日享年又  
十九丹次日置里して死

中川將監重清

中川將監源重清者始仕織田信長公有勇才且善  
射後奉仕

東照宮

台徳大君

台徳大君每被召重清於營中試射術其子左平太  
重長繼箕裘藝又從吉田大藏茂氏吉田六左衛門  
重勝伊丹半左衛門直政各得其宗伊丹者吉田印  
西門人也後因  
大猷大君之命言上其技術

西尾小左衛門重長

西尾小左衛門源重長者奉仕

台徳大君

大猷大君居江戶從吉田大藏茂氏悟其微妙謂之  
大藏加賀傳後重長授與其術妙於大庭軍大夫景  
重平澤助左衛門吉重大庭者仕松浦家在西州後  
致仕居平安城平澤者仕關宿侍從久世廣之元祿  
五壬申年十二月廿六日死

森刑部直義

森刑部直義者父曰小太夫仕田中兵部大輔吉政  
居筑州久留目領采邑千石後致仕居江州直義移  
居平安城從吉田六左衛門八道雪荷學射悟其妙  
始仕酒井宮内大輔忠勝後仕松平備前守隆綱其

子刑部往直其子刑部直平繼箕裘之藝又有鳥居  
佐五右衛門勝正者與直義共學射於雪荷入道為  
精妙仕内藤豐前守信照後薙髮號一泡

山口軍兵衛

山口軍兵衛者從吉田印西得授受固精射也或曰  
遠矢到四町貫柳梢印西甚賞美之不拔其矢伐其  
柳書天晴之二字而授山口云後仕宰相忠直卿於  
蓮華王院射通繼緣十間以發其名

小川甚平

小川甚平者不知謂何國人也射於蓮臺野而發其

射名關白秀次公賞之賜黃金云云

系重傳書曰關白秀次公賞之賜黃金云云  
田代西三六の地券よりしのみとある二百三  
系重と聖後傳にありはる田代より此系重  
度之右近のる場二百二十も也道基此武百四十  
も也関白秀次公賞之賜黃金云云  
へ重く田町の道へ夫と射付る者よを枚宛  
トする事也此判令を枚宛する者よ小川基平と  
り仁よりする事也又大和郡心より海へり  
武百又十三も是西より東へ落し射る所也

先さうり此西也此系重と関白重光と  
けする換沙汰はれはれと也

木村伊兵衛

木村伊兵衛者精射也天正年中於蓮華王院始射  
通繼縁三間後白川仁兵衛關六藏黑田弥七吉田  
五右衛門山口軍兵衛淺岡平兵衛等各射繼縁星  
野小左衛門堀助右衛門者射通繼縁三十間而發  
射名於華夷

系重傳書曰繼縁射也初する事天正乃末系の  
人木村伊兵衛より仁よりすること跡さうりよ二百



也中より縁縁ろく小終る事と詔云乃村手  
 左中及射より上る浅井紀保も及座十二名終射  
 逐せ八越座十名終射逐と扱よ八菊此川  
 わらと十九名事さ先中と云さ川て射逐と  
 扱よ早井小座の垣地堂つと尸仁取人の菊のつ  
 わらと十九名事堂より水十名以上三十間終  
 射逐と扱よ射手は集て縁縁と尸事ハ矢  
 多二川射りけて逐と事つらる物と尸又  
 矢殺射り事小はらる事也

今熊野猪之助

今熊野猪之助者平安城人也天正年中始射於蓮  
 華王院此堂前草射之起也

京重曰堂と射逐初らるハ天正乃中以今終地極  
 助と云者也

矢殺松曰三十三名堂射社一越ハ東山今終地  
 親善堂乃別苗かふりの坊とやんらと  
 るゆて八坂村善塚と村のひとびとゆてなり物さ  
 三十三名堂と極と初てらり矢あくと射とめよ  
 事也

是日今終地極と助と  
 今終地別苗と云者也

淺岡平共衛

淺岡平兵衛者尾州清瀨人而習射於竹林如成慶  
 長十一年正月十九日於蓮華王院射通五十一本  
 九堂射而第一二者盡觴於淺岡而後上田角兵衛  
 筒井傳兵衛鹽屋覺左衛門吉田五左衛門櫛田次  
 左衛門日置清順伴半右衛門堀江助右衛門糟谷  
 左近吉田大藏矢島平左衛門齊藤勘兵衛落合孫  
 九郎下村忠右衛門山田半内杉山三右衛門吉田  
 小左近大橋長藏高山八右衛門吉井助之丞長屋  
 六左衛門吉見喜太郎星野勘左衛門葛西蘭右衛  
 門和佐大八都二十六人謂之堂前大射手或稱京一

或書曰京初二十三る堂由て矢教を用事是  
 全く弓道の助といふを必しんとすといふ上右は弓  
 とまじらるるのいふを先として矢教と先といはせ  
 とそのぬへ中りと云ふのいふも自あきし一かされ  
 いはくつらるる物也故わたりとゆんと欲する時ハ後  
 りとまじらるる物也故わたりとゆんとまじらるる時わ  
 り道自とつらす矢教と云ふのいふと人よの力  
 五矢教とわたりつらるる時ハ力とつらるる物と  
 めは故より道自とつらるる物とつらるる物とつらるる  
 中ハ時ハ矢教と云ふのも自絶とを急してま

内よをへ〜うまの辨使あるを射る事皮ぞ  
 と主とせと力の品あか〜うせううる也と云の  
 皮とい的のわけは淺深とあり射るよ今れ人夫  
 教と多射る事とられ道とありより是れ力と射る  
 道かれ夫と云る誤也〜うまよと云た世盡と云  
 一〜るんま今人の夫教と用らまゆ也いあ  
 す夫十篇の内也皆とまうと云らるるをたあ  
 してまも前れ善惡とかん〜る也能よ末世の  
 人夫教と多射る多と云〜るを本と云る射  
 ち自らあの道廢は〜れ能も前正〜るこ

是ハ夫教と云らるといふは程子云と云〜る  
 一孔子曰り射る事一志子よ然り)的と云  
 したる射の却てを射る事と云り實よら  
 と云んんものいんんとい言わんやこれの末世の  
 一と云らる者他人の耳目と能らん事と云  
 巧とらるふらひてかる事極くの奇物と巧出  
 一云まよらたふむれ自由とゆる人辨なり是  
 故よ末世の者極られ盡人と云射のい堂乃教  
 と多く云〜る者と云く天下一人の盡人と云  
 けり故よ末世よ能らる人とい事と云らるて



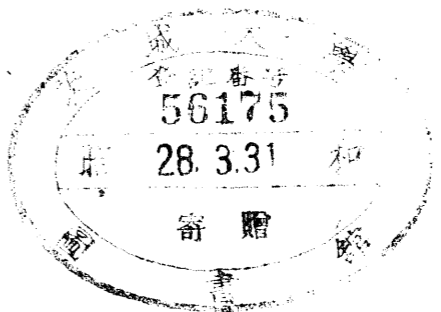


本朝武藝小傳

三

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

281  
3



武藝小傳卷之四

馬術

馭法者 本邦自往古而為武事始故其法之  
傳授有諸家京都將軍家未天下大亂諸家各  
失家傳偶僅存者小笠原家馬術而已故諸士  
皆因之大小坪慶秀技諸士而得精妙八條江州  
悟微妙緒各皆建一冢法方今之世謂馬藝者  
不外大小坪八條故以大小坪八條為騎法中興祖

大小坪式部大輔慶秀

大小坪式部大輔慶秀者

或廣秀

上總人也始號孫三郎